

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401276		
法人名	一般社団法人 帆の歌		
事業所名	グループホーム 海笛の家		
所在地	北海道函館市若松町22番1号		
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果市町村受理日	平成23年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は函館駅のすぐ側に立地しており、函館駅や朝市、近隣デパートも生活の一部として散策などに利用している。また、運営理念にも謳われている「豊かな人生を送るためのサービスを提供する」一環として、季節の食材を利用した食事の提供、季節ごとの行事やイベントへの参加をしている。また体調不良時には早急な対応と主治医との連携強化等を行っている。今後は町内会との交流を深めるとともに、入居者様が「その人らしい」生活を送れるように関係者全員が情報共有、チームケアができるように繰り返しの研修指導を行ってきたい。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171401276&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171401276&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

函館駅前の繁華街にある4階建てのグループホーム海笛の家は、玄関を入ると受付兼事務室があり、不審者は2階、3階の事務所には入れない構図となっている。1階は会議室やイベントができる大広間があり、4階には地域交流センターと屋上がある。利用者は夏には、屋上で野菜やお花をプランターで育てたり、日光浴を楽しんでいる。事業所内は要所に防火扉があり、2階のベランダには避難用具一式が備え付けてあり、明るく清潔感がある。事業所周辺はデパートやホテルが建ち並ぶ街の中心部で、利用者は花火大会・港祭り・クリスマスイルミネーションなどを楽しむことができ、恵まれた環境にある。管理者と職員は利用者本位のケアを実践し、共に暮らしファミリーとして地域住民と交流しながら生活している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
	1. ほぼ全ての利用者の		1. ほぼ全ての家族と	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 家族の2/3くらい	
	3. 利用者の1/3くらい		3. 家族の1/3くらい	
	4. ほとんど掴んでいない		4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
	1. 毎日ある		1. ほぼ毎日のように	
	2. 数日に1回程度ある		2. 数日に1回程度	
	3. たまにある		3. たまに	
	4. ほとんどない		4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
	1. ほぼ全ての利用者が		1. 大いに増えている	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 少しずつ増えている	
	3. 利用者の1/3くらい		3. あまり増えていない	
	4. ほとんどいない		4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての職員が	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 職員の2/3くらい	
	3. 利用者の1/3くらい		3. 職員の1/3くらい	
	4. ほとんどいない		4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての利用者が	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 利用者の2/3くらい	
	3. 利用者の1/3くらい		3. 利用者の1/3くらい	
	4. ほとんどいない		4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての家族等が	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 家族等の2/3くらい	
	3. 利用者の1/3くらい		3. 家族等の1/3くらい	
	4. ほとんどいない		4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			
	1. ほぼ全ての利用者が			
	2. 利用者の2/3くらい			
	3. 利用者の1/3くらい			
	4. ほとんどいない			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で理念の復唱を行っている。 職員同士でサービス内容について確認できるような雰囲気作りをしている	毎朝の申し送り時に理念を復唱し、「理念がケアに反映されているか」の確認と職員全体の意識の統一を図り、実践に繋げている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	在籍している町内会より毎月行事予定が配布されている ホームでの必要食材は同町内の商店より配達していただき、季節の食材等も「おまかせ」でお届けできるような信頼関係を築いている	町内会と事業所は行事計画の情報を交換し、相互に行事に参加している。食材は近くの商店から購入し、ヘルパーの実習生や大学生による落語ボランティアなどを受け入れており、積極的に地域との交流をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の理念を書面にした物を各ユニットへ掲示するとともに、ホーム見学者や関係機関に説明をしている。 町内会へは運営推進会議前後に質問、相談等を受けてけている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、ホームの現況報告を行っている。伴う懸案事項等は速やかに対処すると共に、職員全員に周知徹底に努めている	2ヶ月ごとに開催している運営推進会議は、事業所の活動や評価結果の報告と、事業所として次の目標を実現するためのアドバイスをもらうなど、双方向的な会議となっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に生活保護受給中の利用者様に関しては担当支援員と連絡をとりながら、利用者様の生活に不自由が生じないように努めている。また、各種研修会に参加しサービスの質の向上に努めている	市の担当者とは密接に連絡や相談の機会を持ち、介護保険関係や研修会の情報など常に連携し、良好な協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待や身体拘束を正しく理解出来るように内部研修を複数回行い、出席できない職員には書面で通知し全員が理解出来るようにしている。夜間は外部からの侵入防止のため21時玄関施錠をしている	身体拘束による弊害を職員全員が正しく理解しており、拘束のないケアを実践している事業所であるが、全体会議の議題に取り入れられたり、外部研修に積極的に参加し、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	特に虐待防止については仙台センター方式の研修終了後計4回にわたり内部研修を行い、アンケート結果により職員の意識付けを確認し、実践している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止研修の一環として行っている。現状は制度を活用される入居者様はおりません		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は充分時間をとり、ホームの理念やケアに関する考え方や取り組みを説明し、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について、納得されるまで説明している		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月「便り」を作成し、関係機関、家族に送付するとともに各ユニットへ掲示し内容を確認し評価していただき、次回へ繋げられるよう職員全員で取り組んでいる	年2回の家族会は夏祭り、クリスマス会の終了後に実施し、家族の意見や要望を聴いている。参加できない家族とはメールで情報を交換し、気軽に話せる関係を築き、運営に反映させている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議で運営推進会議の内容報告を行い家族会には出席できる職員全員参加している。業務の都合で参加できない職員に対しては後日、書面で確認している	運営者と管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、要望や意見を聞くよう心掛けており、職員は勤務体制や行事に合わせてのアイデアなどを話し、より良い運営に繋げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	申し送りや会議、定期的なコミュニケーションにて状況把握し職員が意欲を持って働けるように努めています		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修への参加の機会を設けると共に、内部研修を行う事で職員のスキルアップを図る。また、キャリアアップ希望の職員に対しては受験できるような環境を提示している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協議会主催の講演会や講習会へ参加している。また同協議会の懇親会にも参加し他グループホーム職員と交流の場を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時は傾聴し、ご本人の心情を図ると共に前担当者から情報提供をしていただき、困りごとや要望を確認する。時間を掛けて馴染みの関係が構築できるように努める		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の思いなど傾聴し、労をねぎらいながらもこれまでの関係が切れる事はない事を、しっかり説明し、納得されるまで何度も説明の機会を設けて対応する		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に担当ケアマネと連絡を取り合い協議する。入居時は留意点を確認すると共に、改善に向けた支援の内容を職員で検討する		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事はしていただくも、その時の心身の状況を把握してから行う。役割作りを大事にし、職員と入居者様が一緒に笑える環境を作る		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事を実施しており、契約時に外泊、外出、面会等はホーム側の規制は一切ない事を説明している。面会時は情報交換を行い、心身状況に変化が生じたさいも医療機関との連携を報告している		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様がかかりつけている病院に継続し通院したり、天候状況にも左右されますが、過去によく行っていた市場等を見学したりして楽しんでいただける支援をしている	金銭や宗教にからむ馴染みの方は、家族の依頼により1階事務室で面会を拒否しているが、馴染みのマッサージの方が定期的に訪れたり、友人の訪問などがあり、継続的な交流を支援している。近くのデパート・朝市・函館駅など思い出の場所に出かけたりもしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自身の生活ベースに配慮しながらも、入居者様間で関係悪化の兆しが現れた場合、職員は間に入り散歩や個別の会話等で気分転換を図る。また、ご自身で自室から出ることが困難な入居者様には心身状況に配慮し、他利用者様と一緒に過ごせる時間を提供出来るように支援しています		

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設等に転居された入居者様の情報など機会がある時に伺い職員間で話をしたりしている。転居後の家族様等からの連絡は一切ない。	
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床就寝等一日の生活リズムが入居者様のペースに添って支援を行っている。またモニタリングやアセスメント等で変化を確認し入居者様の望む生活像を探ると共に職員全員で近づけるように支援している	利用者の思いを確認し、自己選択や自己決定を尊重している。困難な利用者は家族からの情報や動作・表現で汲み取ったり、本人の視点に立って考え、その人らしい暮らしを続ける支援をしている。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやライフヒストリーで過去の喜びや悲しみが現状に影響があることを職員が把握できるようにし、入居者様が混乱されないように支援している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の個人情報を個別ファイルにまとめ職員が確認できるようにしている。また、介護記録や申し送りなど日々の変化をキャッチし対応出来るようにしている	
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心として、その人らしく生活できるように、ご本人、ご家族の希望、要望等を確認し毎月のユニット会議で取り上げる他、日々の申し送りや職員間の会話、必要時の担当者会議の開催などを通じてケアプランを作成している	日々の記録を参考にし、ユニット会議で職員からの意見やアイデアを聴き、家族の要望、主治医と協議しながらモニタリングで新たな課題の有無を検討し、利用者の状況に応じて現状に即した介護計画を作成している。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員が24時間の介護記録を記載すると共に、特変や気がついた事など申し送りノートを利用し職員間で情報共有を行い、状況変化時には介護計画を見直し作成している	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険でのサービスは利用者負担が大きくなるため、医療保険対応の訪問マッサージや訪問リハビリも検討している	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の食材は近所の市場から届けていただいている。また、町内会、小学校、ボランティアの方々の協力のもと、各行事ごとに入居者様と参加し地域交流を楽しめるように支援している。	
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間毎の往診の他、特変時は夜間、日、祝日関係なく連絡が取れる状況となっている。また遠方に住んでいる家族様が来られた時に情報提供を行い、必要時主治医と面会が出来るよう支援している	本人、家族が希望する従来のかかりつけ医を継続することは可能である。近くの協力医とは訪問診療や夜間対応など協力体制を構築しており、専門的診療は複数の医療機関と連携を取りながら支援をしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、ご家族と相談の結果訪問看護が必要と判断された場合対応している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に入居者様の身の回りのお世話(洗濯等)を行い安心出来るようにし、病院関係者と情報交換に努め早期退院出来るように支援している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、もしくは心身機能の低下が進んできていると判断された場合、ご家族に意向を確認し、主治医に報告している	終末期のケアについて、家族には契約時に事業所としてできること、できないことを明確に説明している。重度化した場合は医師の判断と家族の意向を繰り返し、確認しながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は緊急マニュアル、連絡網、主治医連絡先を各ユニットへ提示している		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	年2回避難訓練を行うと共に、申し送り時に通報訓練に対応できるような訓練をしている	年2回の火災訓練は昼夜を通して様々な発生時間を想定し、地域住民や消防署と連携を図り協力を得ている。防火扉が完備され、2階ベランダに避難用具一式が備え付けてある事業所である。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が入居者様一人、お一人のこれまでの生活や思いを尊重しながらも、堅苦しくなく「いつも」の生活ができるように支援しています	利用者の尊厳とプライバシーを守るケアを実践し、トイレ誘導の声かけは、さり気なく本人の耳元や居室でしている。個人の記録は一定の場所に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様各個の心身状況に合わせて声かけや働きかけを行い、ご自身の意向にそった支援が出来るように努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活ペースを尊重し職員の都合で不便をおかけしないようにチームで支援する事を徹底しています		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要時訪問美容室を依頼。また行事や外出時は希望がある入居者様に対してお化粧をしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスのみ優先した献立ではなく、季節の食材や昔なつかしい料理を取り入れたり利用者様の嗜好等に配慮し、一緒に会話をしながら食事をすることで栄養摂取でなく五感で食事を楽しんでもらっている	季節の食材を近くのお店から仕入れ、利用者の嗜好に合わせた献立を作成し、一人ひとりに合わせて刻み食などを取り入れている。職員は検食簿に記録し、食事委員会がチェックしている。利用者は調理や後片付けを職員と一緒にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事委員会を中心とし、バランスの良い食事を提供する事で体調維持につなげている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自室洗面所で歯磨きの支援をしています。また、必要に応じて歯科受診をしています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自室トイレで時間や周囲を気にかけることなく自分のペースで排泄が出来る。転倒等の危険回避のため声かけを行い、自立困難な入居者様に関してはプライバシーに配慮しながら支援している	居室にトイレと洗面台が備え付けてあり、本人のペースで自立に向けた支援をし、困難な利用者は排泄パターンを把握し、歩行介助しながらトイレ誘導をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維摂取、水分量、運動量で便秘しないようにしているが、排泄間隔が長くなる前に主治医と相談し場合によっては下剤を用いることもある。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様が入りたい時に入浴出来るように支援している。ご自身で言えなかったり、表現できない入居者様に対しては空き日数に配慮し支援している	浴槽は広く手すりも完備しており、利用者は希望によりいつでも入浴できる。拒否傾向の利用者には香りの良い入浴剤を使用したり、日を変えて支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の就寝時間は決めておらず、見たいテレビがあったり、早く休みたい時等お一人ずつ対応している。日中も自室で休まれる入居者様やリビングでうたた寝している入居者様もあり、風邪を引かない配慮をしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用など職員が理解できるように処方箋を個別ファイルに挟んでいる。利用者様の体調変化時等は主治医に連絡し薬の調整を行い、職員全員がわかるように申し送りノートに記載し確認している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭き等を中心にお手伝いをお願いしている。クリスマス会は貼り絵を作成し、家族様から喜ばれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天候、体調に合わせてホームの周りを散歩している。また、花見や焼肉、さくらんぼ狩りを行い、港まつりパレード見学や花火大会見学等季節に合わせてた外出支援をしている</p>	<p>一人ひとりの状態に合わせて、近くの小公園や遠出のドライブなどに手作りのお弁当を持って出かけている。花火大会や港祭りパレードは、実行委員会が利用者のために席を設けて迎えてくれている。近くのデパートや函館駅周辺にも散歩に出かけている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>契約書に金銭に関する項目もあり、契約時家族、本人に説明し金銭は持ち込まない事になっている。本人希望で買い物をする時など一定の金額を預けて入居者様が買い物を楽しめるよう職員が見守り支援します。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望がある場合は子機を利用し電話が出来るようにしていますが希望はありません。手紙が届いた場合はご本人へお渡ししている</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>台所は対面式で調理の様子がわかるようにしており、共用スペースは季節の飾りつけを行い、季節感を感じてもらう。温度、湿度は季節に合わせて窓の開閉等で調整を行い、快適にすごしていただくようにしている</p>	<p>2階と3階にある事業所は明るく清潔感があり、不快な音や臭いもなく、函館港が目前に広がり開放的である。フロアーにはおひなさまが飾られ、家具の配置も家庭的であり、快適に暮らせるよう配慮がなされている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人で過ごされたい入居者様は自室で過ごす事が多くなっているが、職員が声かけ等で対応し、リビングでうたた寝されるのが好きな方は風邪引かないように配慮している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様が入居時にご家族と相談し物品、配置等決定されている。</p>	<p>各居室にトイレと洗面台、クローゼットが備え付けられており、本人は家具や日用品を自宅から持ち込み、一人ひとりが使いやすいように配置し、居心地のよい生活の場となっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>共用スペースの手すり設置や浴室内は滑りにくい床になっている。廊下や居室床はクッションフロアで階下に物音が響きにくい構造で、入居者様が気兼ねなく安全に移動できるようになっている</p>		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401276		
法人名	一般社団法人 帆の歌		
事業所名	グループホーム 海笛の家		
所在地	北海道函館市若松町22番1号		
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果市町村受理日	平成23年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ユニット海」に同じ
------------

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171401276&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171401276&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で理念の復唱を行っている。 職員同士でサービス内容について確認できるような雰囲気作りをしている		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	在籍している町内会より毎月行事予定が配布されている ホームでの必要食材は同町内の商店より配達していただき、季節の食材等も「おまかせ」でお届けできるような信頼関係を築いている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の理念を書面にした物を各ユニットへ掲示するとともに、ホーム見学者や関係機関に説明をしている。 町内会へは運営推進会議前後に質問、相談等を受けてけている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、ホームの現況報告を行っている。伴う懸案事項等は速やかに対処すると共に、職員全員に周知徹底に努めている		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に生活保護受給中の利用者様に関しては担当支援員と連絡をとりながら、利用者様の生活に不自由が生じないように努めている。また、各種研修会に参加しサービスの質の向上に努めている		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待や身体拘束を正しく理解出来るように内部研修を複数回行い、出席できない職員には書面で通知し全員が理解出来るようにしている。夜間は外部からの侵入防止のため21時玄関施錠をしている		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に虐待防止については仙台センター方式の研修終了後計4回にわたり内部研修を行い、アンケート結果により職員の意識付けを確認し、実践している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止研修の一環として行っている。 現状は制度を活用される入居者様はありません		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は充分時間をとり、ホームの理念やケアに関する考え方や取り組みを説明し、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について、納得されるまで説明している		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月「便り」を作成し、関係機関、家族に送付するとともに各ユニットへ掲示し内容を確認し評価していただき、次回へ繋げられるよう職員全員で取り組んでいる		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議で運営推進会議の内容報告を行い家族会には出席できる職員全員参加している。業務の都合で参加できない職員に対しては後日、書面で確認している		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	申し送りや会議、定期的なコミュニケーションにて状況把握し職員が意欲を持って働けるように努めています		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修への参加の機会を設けると共に、内部研修を行う事で職員のスキルアップを図る。また、キャリアアップ希望の職員に対しては受験できるような環境を提示している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協議会主催の講演会や講習会へ参加している。また同協議会の懇親会にも参加し他グループホーム職員と交流の場を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時は傾聴し、ご本人の心情を図ると共に前担当者から情報提供をしていただき、困りごとや要望を確認する。時間を掛けて馴染みの関係が構築できるように努める		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の思いなど傾聴し、労をねぎらいながらもこれまでの関係が切れる事はない事を、しっかり説明し、納得されるまで何度も説明の機会を設けて対応する		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に担当ケアマネと連絡を取り合い協議する。入居時は留意点を確認すると共に、改善に向けた支援の内容を職員で検討する		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事はしていただくも、その時の心身の状況を把握してから行う。役割作りを大事にし、職員と入居者様が一緒に笑える環境を作る		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事を実施しており、契約時に外泊、外出、面会等はホーム側の規制は一切ない事を説明している。面会時は情報交換を行い、心身状況に変化が生じたさいも医療機関との連携を報告している		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様がかかりつづけている病院に継続し通院したり、天候状況にも左右されますが、過去によく行っていた市場等を見学したりして楽しんでいただける支援をしている		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自身の生活ペースに配慮しながらも、入居者様間で関係悪化の兆しが現れた場合、職員は間に入り散歩や個別の会話等で気分転換を図る。また、ご自身で自室から出ることが困難な入居者様には心身状況に配慮し、他利用者様と一緒に過ごせる時間を提供出来るように支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設等に転居された入居者様の情報など機会がある時に伺い職員間で話をしたりしている。転居後の家族様等からの連絡は一切ない。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床就寝等一日の生活リズムが入居者様のペースに添って支援を行っている。またモニタリングやアセスメント等で変化を確認し入居者様の望む生活像を探ると共に職員全員で近づけるように支援している		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやライフヒストリーで過去の喜びや悲しみが現状に影響があることを職員が把握できるようにし、入居者様が混乱されないように支援している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の個人情報や個別ファイルにまとめ職員が確認できるようにしている。また、介護記録や申し送りなど日々の変化をキャッチし対応出来るようにしている		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心として、その人らしく生活できるように、ご本人、ご家族の希望、要望等を確認し毎月のユニット会議で取り上げる他、日々の申し送りや職員間の会話、必要時の担当者会議の開催などを通じてケアプランを作成している		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員が24時間の介護記録を記載すると共に、特変や気がついた事など申し送りノートを利用し職員間で情報共有を行い、状況変化時には介護計画を見直し作成している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険でのサービスは利用者負担が大きくなるため、医療保険対応の訪問マッサージを行い必要に応じて訪問リハビリも検討している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の食材は近所の市場から届けていただいている。また、町内会、小学校、ボランティアの方々の協力のもと、各行事ごとに入居者様と参加し地域交流を楽しめるように支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間毎の往診の他、特変時は夜間、日、祝日関係なく連絡が取れる状況となっている。また遠方に住んでいる家族様が来られた時に情報提供を行い、必要時主治医と面会が出来るよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、ご家族と相談の結果訪問看護が必要と判断された場合対応している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の入居者様の身の回りのお世話(洗濯等)を行い安心出来るようにし、病院関係者と情報交換に努め早期退院出来るように支援している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、もしくは心身機能の低下が進んできていると判断された場合、ご家族に意向を確認し、主治医に報告している		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は緊急マニュアル、連絡網、主治医連絡先を各ユニットへ提示している		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行うと共に、申し送り時に通報訓練に対応できるような訓練をしている		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が入居者様お一人、お一人のこれまでの生活や思いを尊重しながらも、堅苦しくなく「いつも」の生活ができるように支援しています		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様各個の心身状況に合わせて声かけや働きかけを行い、ご自身の意向にそった支援が出来るように努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活ペースを尊重し職員の都合で不便をおかけしないようにチームで支援する事を徹底しています		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要時訪問美容室を依頼。また行事や外出時は希望がある入居者様に対してお化粧をしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスのみ優先した献立ではなく、季節の食材や昔なつかしい料理を取り入れたり利用者様の嗜好等に配慮し、一緒に会話をしながら食事することで栄養摂取でなく五感で食事を楽しんでもらっている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事委員を中心とし、バランスの良い食事を提供する事で体調維持につなげている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自室洗面所で歯磨きの支援をしています。また、必要に応じて歯科受診をしています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自室トイレで時間や周囲を気にかけることなく自分のペースで排泄が出来る。転倒等の危険回避のため声かけを行い、自立困難な入居者様に関してはプライバシーに配慮しながら支援している		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維摂取、水分量、運動量で便秘しないようにしているが、排泄間隔が長くなる前に主治医と相談し場合によっては下剤を用いることもある。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様が入りたい時に入浴出来るように支援している。ご自身で言えなかったり、表現できない入居者様に対しては空き日数に配慮し支援している		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の就寝時間は決めておらず、見たいテレビがあったり、早く休みたい時等お一人ずつ対応している。日中も自室で休まれる入居者様やリビングでうたた寝している入居者様もあり、風邪を引かない配慮をしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用など職員が理解できるように処方箋を個別ファイルに挟んでいる。利用者様の体調変化時等は主治医に連絡し薬の調整を行い、職員全員がわかるように申し送りノートに記載し確認している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭き等を中心にお手伝いをお願いしている。クリスマス会は貼り絵を作成し、家族様から喜ばれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調に合わせてホームの周りを散歩している。また、花見や焼肉、さくらんぼ狩りを行い、港まつりパレード見学や花火大会見学等季節に合わせた外出支援をしている		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約書に金銭に関する項目もあり、契約時家族、本人に説明し金銭は持ち込まない事になっている。本人希望で買い物をする時など一定の金額を預けて入居者様が買い物を楽しめるよう職員が見守り支援します。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は子機を利用し電話が出来るようにしていますが希望はありません。手紙が届いた場合はご本人へお渡ししている		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は対面式で調理の様子がわかるようにしており、共用スペースは季節の飾りつけを行い、季節感を感じてもらう。温度、湿度は季節に合わせて窓の開閉等で調整を行い、快適にすごしていただくようにしている		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごされたい入居者様は自室で過ごす事が多くなっているが、職員が声かけ等で対応し、リビングでうたた寝されるのが好きな方は風邪引かないように配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が入居時にご家族と相談し物品、配置等決定されている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースの手すり設置や浴室内は滑りにくい床になっている。廊下や居室床はクッションフロアで階下に物音が響きにくい構造で、入居者様が気兼ねなく安全に移動できるようになっている		



目標達成計画

事業所名グループホーム海笛の家

作成日：平成 23年 3月 16日

市町村受理日：平成 23年 3月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	63	ご家族様との関係でより深い信頼関係を作っていききたい	お客様、ご家族様、ホームと信頼関係、連携をもっと深められるよう構築していききたい	・日々の生活や行動、体調状況等を面会時に報告や話し合いをしてホームでのサービス提供を理解して頂き職員には内容を伝える	12か月
2	35	現時点では、まだスプリンクラーが設置されていない	平成23年度末までに設置する。	平成23年度末までに、関係機関と連絡・調整の上スプリンクラーを設置する。	12か月
3	14	職員のスキルアップについて	経験年数や向上心、個性等に合わせた外部、内部研修を実施し日々の仕事に反映できるようにしたい	・職員のシフトで研修を行わず、必要な研修に合わせてシフトを作成しレベルに合わせた研修を行う。 ・外部よりPTやOTを招き基本の再確認研修も実施する	12か月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。